

月刊 長谷さんさん通信

HASE SAN SAN NEWS

2021

6

月号

●発行：南アルプス山麓地域振興プロジェクト
推進協議会（愛称：長谷さんさん協議会）

●問合せ：南アルプス山麓地域振興プロジェクト
推進協議会事務局
TEL：0265-96-0938 FAX：0265-96-0939
E-mail：organic@j-sanchoku.net

●編集・制作：株式会社産直新聞社
長野県伊那市荒井 3428-7allla オフィスC

今年も開講！「長谷さんさん農学校」 有機栽培を畑で学ぶ

2021年度の「長谷さんさん農学校」が始まりました。伊那市西箕輪の有機農家・瀧沢郁雄さん（草間舎）を講師とし、青空の下で有機栽培のノウハウを教わる2年目の講座です。本年度は新型コロナウイルスの感染状況を考慮して都市部への告知は行わず、「長谷在住で有機栽培に興味がある人」をメインの対象としています。すでに家庭菜園をやっている人・都会から移住してきて野菜づくりに興味がある人・この機会に技術をしっかりと学び直したいという人：いずれも大歓迎！講座の様子は、毎月発行の「長谷さんさん通信」でお伝えしていきます。興味を持たれた方は、上記問い合わせ先までご連絡ください。さて今回は、森の土壌に生息する微生物を畑に取り入れる「土づくり」について、初回講座の内容を中心に紹介していきます。

豊かな森の土を目指す

瀧沢さんが本年度掲げるテーマは「土づくり」です。昨年度、受講者からは「うちの菜園で〇〇が上手く育た

ない」といった質問がいくつも寄せられました。しかし、一つ一つの問題に対処する前に、まずは土づくりに目を向けるべきだということになりました。



ぼかし肥料づくりを実演する瀧沢さん=4月24日



長谷の雑木林の土着菌が付いたおにぎり=4月24日

4月24日の初回の講座では、瀧沢さんの土づくりの基本的な考え方について説明がありました。瀧沢さん

た肥料のことです。瀧沢さんはここに、ある細工をしたおにぎりを加えます。細工といっても、直接手を加

がイメージしているのは、「森の土」だそうなんです。森では、木の葉が茂っては枯れ、時間をかけて分解され、やがては土に還るサイクルを繰り返しています。そこには、人の目には見えない、微生物が深く関与しています。瀧沢さんは、この微生物の力を畑づくりに生かすため、「ぼかし肥料」を使います。ぼかし肥料とは、もみガラ・米ぬか・鶏糞などに水を加え、発酵させ

えたわけではありません。あらかじめ長谷の雑木林の中に1週間ほど放置し、自然の菌を集めておくだけです。こうすることで、長谷にいる土着菌がおにぎりに付着し、畑の土を豊かにしてくれるのです。

農薬は「使いたくない」

講座では、瀧沢さんにぼかし肥料づくりを実演してもらいました。かぐはん機の中に、もみガラ・米ぬか・鶏糞に、タネ（土着菌付きのおにぎり）の欠片と糖蜜を加え、混ぜ合わせます。材料の分量よりも水加減が肝心だそうで、目安は「手で握ると団子になり、指でつつくと崩れる硬さ」

初企画！ 農薬・化学肥料を使わない米づくり挑戦 「長谷みらい米づくりプロジェクト」スタート

2021年度から、長谷さんさん協議会と溝口未来プロジェクトの協働で「長谷みらい米づくりプロジェクト」がスタートしました。伊那市長谷中尾で農薬、肥料不使用の海外輸出用高規格米を栽培する農業法人Wakka Agri社長の細谷啓太さんを勉強会の講師に迎え、溝口地区の3つの研修圃場で有機栽培の米づくりに挑戦しています。長谷地区の棚田の活用方法の一つとして棚田オーナー制を取り入れることも見据えて、まずは自分たちで農薬・化学肥料を使用せずに米をつくる方法を学んでみようという取り組みが始まりました。このプロジェクトに関心を持った伊那市近郊の参加者も加わり、現在22名で活動しています。

田植え前の準備から 稲の成長は決まる

勉強会は5月に2度行われ、春耕起、代かき、田植え、田の草取りについて学びました。講師の細谷さんは化学肥料を使わない栽培にとって、土壌微生物の役割を最大限活かすことや、稲自身の成長力を高めること、そのための環境を整えることがいかに重要かという話をしてくれました。田植え前の耕

起や代かきなどの土の準備の段階で、稲の生育に差が出ることを知り、驚



田の草取りについて講義を行う細谷さん=5月15日

おきに3回田の草取りを行いました。参加者は田んぼごとに違う稲の成長具合や土の具合、小さい雑草も根は見えている部分の2倍以上に伸びているのを見て驚きながら作業をしていました。保護者と一緒に参加した子どもたちは、田んぼに着くと「わあ！イモリがいっぱい

田の草取り体験

農薬を使わない管理で課題となる雑草。勉強会で「雑草の成長スピードはとても早く、できる限り草の小さい段階で手を入れることが重要」と聞き、5月22日の田植え後、1週間



田の草取りを行う参加者=6月5日

いる！」と嬉しそうに走り出し、イモリやカエル、ゲンゴロウ、コオロムシなどを捕まえて遊んでいました。生き物の多様さは化学農薬を使わない栽培ならではのものかもしれません。今度の秋にはどのような米ができるのか？楽しみにしておいてください。(羽)

裏面も
ご覧ください



唐辛子栽培講習会を長谷中学校で実施

信州大・松島准教授が講師

長谷さんさん協議会では長谷地区での唐辛子栽培の最適条件を明らかにするため、信州大学農学部で唐辛子に関する植物遺伝育種学の研究を行う松島憲一准教授に依頼し、長谷地区で唐辛子の栽培実験を行いました。その栽培実験の結果報告と唐辛子栽培に関する講習会を4月26日に長谷中学校と共催しました。

■長谷の太陽の辛味の理由

栽培実験については松島研究室大学院生の松澤卓磨さんより報告がありました。

唐辛子の栽培実験は、①化学肥料は使わず鶏糞および牛糞堆肥を使った畝、②鶏糞および牛糞堆肥の代わりに同量のチン成分を含む化学肥料を施用した畝、③長野県一般的な施肥基準に基づいて化学肥料を施用した畝(慣行栽培)の3つの区画で実験しました。結果で、特に興味深かったのは、①の畝の唐辛子が、他の畝に比べて辛味が強かったことです。松島研究室のこれまでの研究から、リン酸肥料が過剰になると辛味成分含量が低下することがわかっているようで、化学肥料を使った他の2区画がリン酸過剰



会場の様子=4月26日

■唐辛子は乾燥が重要

松島准教授は、唐辛子の歴史や種類、栽培について話した上で、唐辛子は栽培後の乾燥が重要だと話します。上手に乾燥しないと果実内にカビが繁殖し、外からわからない場合もあるので注意が必要なことや、光に当てるのも大切だけど、それよりも風に当たった方が乾きやすいといったポイントを話してくれました。

最後に、松島准教授は中学生に向けて「ただ、育てて収穫するだけではなく、唐辛子の花の向きや茎の数など小さなことに目を向けてもらうと、また違う楽しさが見つかると思うので、じっくり観察しながら唐辛子栽培を楽しんでほしい」と締めくくりました。(羽)



松島憲一准教授

ラー油の絞りだねで作った味噌だれ ファームはせにて7月発売

長谷中学校が作っているラー油「長谷の太陽」を絞ったあとにネギ・唐辛子・ニンニクの絞りだねを甘辛の味噌だれに仕立てた商品が7月上旬より道の駅南アルプスむら長谷の直売所「ファームはせ」にて発売されます。長谷中学校から提供を受けたレシピをもとに道の駅の食事処「すずな」でソースカツ丼と共に提供していたところ、お客様にも好評で商品化することになりました。農業法人ファームはせの職員や地域おこし協力隊を中心とした長谷さんさん協議会の6次産業化ワーキングチームのメンバーが味の改良やパッケージなど検討を重ね、発売にこぎつけました。ごはんのお供はもちろん、冷奴や野菜炒めの調味料として食べていただくのもおすすめな商品です。今後はパッケージを中学生に考えてもらおうなど、



ラー油の絞りだねで作った味噌だれ

より長谷地区に根付いた商品となるように工夫していきます。数量限定となりますので、気になる方はぜひ道の駅の直売所においてみてください！(羽)

学校給食にもっと長谷の野菜を

供給体制強化へ、ワーキングチーム議論

長谷さんさん協議会の給食ワーキングチームでは4月30日と5月31日、いずれも長谷中学校で会合を開きました。農家から野菜を買い取る際の価格の決め方について話し合ったほか、本年度から長谷産の米を月に30キロ使用することになったことが報告されました。

長谷中栄養教諭の原真理子さん、生産者から野菜を集めて学校に納品している西村安司さん・小松一輝さん、道の駅の直売所を営むファームはせの羽権二さんがメンバー。高齢化のため解散した「麦わら帽子の会」がかつて担っていた、学校給食に地場産野菜を活用する仕組みを継承しようと、月に1度ほどの頻度で話し合いを続けています。

現在は、西村さんと小松さんの自発的な協力とファームはせからの納品が主な供給ルートになっています。5月の会合で

は、ファームはせが新たに集荷を始めることを検討していると報告され、野菜の供給体制が強化されることへの期待が高まりました。(熊)



学校給食の地場産野菜の活用について話し合うメンバー

長谷さんさん農学校 次回の予定

7月24日 ジャガイモ掘り・秋野菜圃場施肥・耕起、キャベツ・白菜播種(苗づくり)

秋野菜圃場は昨年大豆をつくり、現在はヘアリーベッジという緑肥を蒔いて土づくりをしています。この土づくりで秋野菜はどんな風に応えてくれるのか楽しみです。長谷地区在住の方限定で、引き続き受講生を募集しています。
※天候等により内容は変わることがあります



長谷みらい米づくりプロジェクト 次回の予定

7月3日 草刈り講習会

田畑を管理する上で欠かせない畦草刈り。農機具販売を行う株式会社マツシマ協力のもと刈払い機メーカーの方による安全講習と実地研修を行います。
※天候等により内容は変わることがあります



6・7月の主な予定

- 6月16日(水) 6次産業化ワーキングチーム会合
- 6月19日(土) 長谷さんさん農学校
- 6月20日(日) いどばた会～長谷の郷土食～ 梅しごと
- 6月21日(月) 給食ワーキングチーム会合
- 6月29日(火) 長谷さんさん協議会役員会
- 7月 3日(土) 長谷みらい米づくりプロジェクト 草刈り講習会
- 7月24日(土) 長谷さんさん農学校

- 長谷地区在住の長谷さんさん農学校受講生を対象に協議会が所有する農機具の貸し出しを行なっています。
- 長谷さんさん農園の管理作業をお手伝いしてくれる方を募集しています。

